

農業技術情報

令和3年6月2日

池田町農業構造政策推進協議会

十勝農業改良普及センター

十勝東部支所 015-572-3128

JA 十勝池田町 572-3131

JA 十勝池田町高島支所 573-2111

池田町産業振興課 572-3118

農作物の生育・作業の遅速(6月1日現在) ()内は平年値 斜体は前年度数値

作物名	遅速 日数	生育状況	農作業状況
秋まき小麦	±0	草丈 62.8 (55.4)cm 茎数 1,129 (1,046)本/m ²	止葉期 5/26(5/28) 出穂始 (6/3)
馬鈴しょ(メークイン)	+2	茎長 3.2 (3.8)cm 茎数 1.8 (1.6)本	萌芽期 5/28 (5/30)
馬鈴しょ(男爵)	-	茎長 5.5cm 茎数 4.0 本	萌芽期 5/23
大豆	+2		出芽始 5/25(5/27) 出芽期 5/28(5/30) は種始 5/11(5/13) は種期 5/14(5/16) は種終 5/22(5/18)
小豆	-2		出芽始 (6/1) は種始 5/18(5/16) は種期 5/24(5/20) は種終 5/27(5/25)
菜豆(金時)	-		は種始 5/24(5/26) は種期 5/28(5/30) は種終 (6/3)
菜豆(手亡)	-		は種始 5/24(5/21) は種期 5/27(5/25) は種終 (5/31)
てん菜(移植)	±0	草丈 13.4 (12.4)cm 葉数 10.7 (10.5)枚	
てん菜(直播)	-4		出芽期 5/16(5/12)
牧草	+4	草丈 70.5 (62.9)cm	
サイレージ用 とうもろこし	+2	草丈 9.4 (7.5)cm 出葉数 3.0(2.7)枚	出芽期 5/24(5/26) は種期 5/14(5/15) は種終 5/23(5/23)
直播たまねぎ		草丈 7.8cm 生葉数 1.3 枚	

畑 作

<秋まき小麦>

出穂は平年並が見込まれます。病害防除等のスケジュール遅れが出ないように計画的に実施してください。茎数は平年と比べやや多く、一部には倒伏の恐れのあるほ場もあります。ほ場をよく観察し施肥管理に注意してください。

(1) 赤かび病の防除

赤かび病は開花時期に最も感染しやすく、多湿条件で多発します。出穂揃からの予防的防除が重要です。1回目の適期はほとんどの穂が穂首まで出た開花始期（図1 参照）ですが、開花始に雨天の恐れがある場合は、出穂揃から防除します。ほ場内の生育が早い部分に合わせて1回目の防除（出穂揃）を実施した場合は、生育が遅い部分や、既に使用した薬剤の使用回数等を考慮し、2回目以降も適切な防除を実施してください。出穂後に雨天が続く場合は防除間隔を7日以内とすることも検討してください。



図1 赤かび病の1回目防除時期

表1 赤かび病防除体系例

防除時期	農薬名	系統名	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	回数(出穂期以降)
1回目 (開花始)	バラライカ水和剤	フタルイミド DMI	500	14日	2回以内
2回目 (1回目の7日後)	ベフトップジンフロアブル	ビスグアニジン MBC	800~ 1,000	14日	1回以内 (出穂期以降)
3回目 (2回目の7~10日後)	シルバキュア フロアブル	DMI	2,000	7日	2回以内
4回目	チルト乳剤 25	DMI	1,000~ 2,000	3日	3回以内 (春期以降)

※チルト乳剤は、他作物に薬害が生じる可能性があるため飛散に注意しましょう。

※DMI剤の連用は極力避け、使用回数も最小限とします。例えば1回目の前に赤かび病防除でチルト乳剤 25 を使用した場合、DMI剤の使用回数を最小限に抑えるために、4回目の防除の実施は控えましょう。

表2 小麦の各薬剤の防除効果（令和3年度北海道病害虫・雑草防除ガイド）

薬剤名	系統名	希釈 倍数	使用時期 (収穫前)	赤さび 病	赤かび病	DON 濃度低減	
							ニバーレ
チルト乳剤 25	DMI	1,000	3日前	○	●		
		2,000		●	●		
シルバキュア フロアブル	DMI	2,000	7日前	●	●	●	
リベロ水和剤	DMI	2,000	7日前	●	●	●	
トップジン M 水和剤	MBC	1,500	14日前		●	●	
		1,000			○		
ベフラン液剤 25	ビスグアニジン	1,000～ 2,000	14日前		●		
		1,000				●	●
ベフトップジン フロアブル	ビスグアニジン MBC	800～ 1,000	14日前		●	●	●
プライア 水和剤	N-フェニルカーバメート MBC	1,000	21日前		●	●	●
		1,500			●		●
バラライカ 水和剤	フタルイミド DMI	500	14日前		●	●	●

注)●:北海道指導参考 ○:登録あり

(2) アブラムシ類の防除

ほ場を十分に確認して、薬剤防除の要否を検討しましょう。

【要防除水準】

アブラムシ：出穂 10 日後頃に半分以上の穂でアブラムシが観察される場合のみ、1 回防除が必要。

表3 アブラムシ類防除例

害虫名	農薬名	使用濃度(倍)	使用時期 (収穫前)	回数(以内)
アブラムシ類	ウララ DF	4,000	7日	2回
	スミチオン乳剤	1,000	7日	1回
	アドマイヤー 顆粒水和剤	15,000	14日	2回
	ペイオフME液剤	2,000	7日	2回

<てんさい>

移植およびは種作業は終了しました。ほ場の透水性向上を図る中耕作業や雑草対策を励行しましょう。

(1) 中耕

ア 土壌の膨軟化と地温の上昇及び透水性の改善と畦間の除草のため、「カルチ」「畦

間サブソイラ」などを早期に施工し、初期生育の促進に努めましょう。

イ 中耕の深さは根の広がりを確認し、生育初期には浅めに調整し、次第に狭く深くして畦間が茎葉で覆われる時期まで実施しましょう。

ウ 中耕時、株元まで土を寄せると根腐病の発生を助長するので注意しましょう。

(2) 除草剤散布

ア 除草剤散布のポイントは適期処理にあります。気象条件や土壌水分等を考慮し、生育と雑草の発生に応じた処理に注意してください。

イ 直播栽培は移植栽培と登録基準が異なるので注意しましょう。

ウ 直播栽培の初回散布時期は雑草発生始～発生揃（てんさい本葉2葉期）で、は種後30日前後が目安になります。てんさいの葉齢が進んでいない幼小個体では生育が抑制される場合があるため、注意が必要です。

エ 直播栽培の風害対策でえん麦を混植した場合は、えん麦の**4葉期までに遅れない**ようにイネ科除草剤（ナブ乳剤）による処理を行ってください。えん麦の4葉期にてんさいの生育が小さい場合は、ナブ乳剤を使用してください。

(3) アブラムシの防除

移植栽培におけるかん注処理の持続効果は6月上旬には切れてきます（持続効果40日程度、本年移植期4月29日）。アブラムシの飛び込みの多いようなほ場では防除を実施しましょう。

表4 アブラムシの防除例

害虫名	薬剤名	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)
アブラムシ類	リースン顆粒水和剤	3,000	14日	2回
	ダントツ水溶剤	2,000~4,000	14日	3回
	アクタラ顆粒水和剤	3,000	7日	3回
	モスピランSL液剤	4,000	3日	3回
	トクチオン乳剤	1,000~1,500	30日	2回

(4) 根腐病防除の実施

根腐病は6月中旬頃から発生します。特に連作、短期輪作ほ場など多発が予想されるほ場は、6月中旬と7月中旬の2回防除を実施しましょう。

表5 根腐病の防除薬剤例(株元散布)

薬剤名	系統名	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)
リンバー顆粒水和剤	SDHI	4,000	7日	3回
モンセレン顆粒水和剤	フェニルウレア	1,000	30日	4回(育苗中含む)

<ばれいしょ>

萌芽期は平年と比べ2日ほど進んでいます。適期作業をこころがけましょう。

(1) 慣行培土（中耕）の注意点

- 萌芽の直前と萌芽1週間後に行い、地温を上昇させ萌芽と初期生育を揃えましょう。
- 晴天の午前中に行うと効果的ですが、土壌水分が低いと培土が崩れやすく、緑化の原因になる場合があるので、適度に水分がある時期に実施しましょう
- 土壌が過湿状態の時にを行うと、土を締め過ぎるので注意しましょう。
- 培土作業が遅れるとストロンを損傷し、塊茎数の減少や肥大の妨げとなるため、着雷期までに最終培土を終えましょう。

(2) 疫病の防除

生育は平年と比べ2日ほど進んでいます。天候を確認しながら疫病の予防防を必ず実施しましょう。

ばれいしょ疫病は平均気温10℃以上（最適気温18～20℃）の多湿条件で多発します。特に、生育が過繁茂気味のところ（風通しが悪い・山あい・防風林の影）では発生しやすく注意が必要です。ほ場をよく観察し予防防除に努めてください。

- ア 初発前に必ず防除：ほ場をよく観察し、基本は予防防除に努めてください。
- イ 初回の防除前に感染が疑われる場合：治療効果のある薬剤を使用。
- ウ 作物の生育に応じた薬剤選択：茎葉の生長段階では浸透移行性のある薬剤を使用。
- エ 降雨に応じた薬剤選択：ほ場に入れない状況が予想される場合は、Wインターバル（14日間隔）効果のある薬剤※の使用を検討してください。実施する場合は、初発前から散布してください。
- ※「リライアブルフロアブル 800倍」、「プロポーズ顆粒水和剤 750倍」、「ライメイフロアブル 2,000倍」、「レーバスフロアブル 1,500倍」、「ランマンフロアブル 1,000倍」、「フロンサイドSC 1,500倍」（平成25年度指導参考）。

表6 疫病の防除(例)

防除時期	薬剤名	使用濃度	収穫前日数	使用回数
6月下旬	グリーンダイセンM水和剤	500倍	7日前	10
7月上旬	ゾーベックエンカンティア または レーバスフロアブル	2,000倍	14日前	2
		1,500倍	7日前	2

表7 疫病の防除薬剤 (出典：くみあい農作物病虫害・雑草防除ガイド)

農薬名	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	回数(以内)	成分※1(分類の場合有)	浸透移行性の有無	効果の発現
リライアブルフロアブル	800~1,000	7日	3回	アシルピコリド系 カーバメート系	○ ○	予防治療
ホライズンドライフロアブル	1,000~2,500	14日	4回	QoI シモキサニル	● ○	予防治療
ブリザード水和剤	800~1,500	7日	4回	TPN シモキサニル	× ○	予防治療
ダイナモ顆粒水和剤	2,000~3,000	7日	4回	アミルプロム シモキサニル	● ○	予防治療
プロポーズ顆粒水和剤	750~1,000	7日	5回	CAA TPN	△ ×	予防治療
エキナイン顆粒水和剤	2,000~3,000	7日	4回	CAA シモキサニル	△ ○	予防治療
フロンサイドSC ※2	1,000~2,000	7日	4回	フルアジナム	×	予防
マンゼブ剤	400~600	7日	10回	マンゼブ	×	予防
銅水和剤	ドイツボルドーDF	-	-	塩基性塩化銅	×	予防
	コサイド3000			水酸化第二銅	×	予防
ランマンフロアブル	1,000~2,000	7日	4回	Qil	●	予防
レーバスフロアブル	1,500	7日	2回	CAA	●	予防治療
ライメイフロアブル	2,000~3,000	7日	4回	Qil	●	予防
ゾーベックエンカンティア	2,000	14日	2回	オキサアピフロリン ファミキサトロン	○	予防治療

○:浸透移行性が認められる ●:浸達性のみ認められる △:浸透移行性は認められるが強くない ×:無し

※1 薬剤名が異なっても、成分(分類)が同じ場合は連用を避ける。各薬剤成分を考慮したうえ、総使用回数を遵守し、ローテーション防除を心がける。

※2 「フロンサイドSC」は1,000倍で菌核病、2,000倍で夏疫病に登録あり。花の落ちる時期に合わせて検討する。

<豆類>

は種作業は順調に進んでいます。除草剤と病害虫防除の散布時期に注意してください。

(1) 除草剤の散布

散布適期を逸したり、除草剤散布後の降雨などの影響で、薬害による生育遅延が散見されます。豆類の生育や雑草の発生状況を確認し効果的な散布に心がけましょう。「パワーガイザー液剤」は有機リン系殺虫剤や他の除草剤との10日以内の近接散布は薬害の恐れがあるので避けましょう。

表7 除草剤の使用基準(例)

除草剤名	処理方法	対象作物	使用時期	10a当 使用量	使用回数 (以内)	主な対象雑草の効果						
						シロザ	タデ	ハコベ	ツユクサ	ナギナウシ	スサギゴボ	一年生イネ科
ビンサイド乳剤	土壌処理	菜豆	は種後 (雑草発生前)	330~400g	1	○	◎	◎	×	◎	△	○
パワーガイザー液剤	土壌処理兼雑草処理	小豆	出芽直前~出芽揃	200~300ml	1	◎	◎	◎	×	△	◎	△
		菜豆	出芽直前~出芽期									
コダールS水和剤	土壌処理	菜豆	は種後~出芽前 (雑草発生前)	225~300ml	1	◎	○	◎	△ ~ ×	◎	△	◎
フルミオWDG	土壌処理	菜豆	は種後出芽前 (雑草発生前)	5~10g	1	◎	◎	◎	△	—	◎	△

※フルミオWDG散布に用いた器具類は、メーカー推奨の洗浄方法で洗浄すること。

(2) 中耕

除草剤の残効を考慮し、地温の上昇と雑草減少のため中耕を実施しましょう。雑草減少のための中耕は、日中の暖かい日が効果的です。

(3) 大豆「わい化病」・菜豆「黄化病」(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)の防除

クルーザーを使用している場合については、は種後1ヶ月をめどに防除を行いましょう。ほ場をよく観察して、適切な防除を実施しましょう。

表8 大豆「わい化病」・菜豆「黄化病」の防除例

病害名	薬剤名	使用濃度	使用時期(収穫前)	回数(以内)
大豆 わい化病 菜豆 黄化病	ペイオフME液剤	2,000倍	7日	3回
	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000倍	30日	2回
	ウララDF	2,000~4,000倍	7日	2回

